

の他關係官廳と協力して、その實現を期したのであつた  
が、この運動が最初から半官半民的形態で進められた結  
果、その組織の擴大につれてその過程に生起する諸問題  
の責任の所在について問題が發せられて来たが、政府自ら  
が前線に進出して之を指導せんとする以上、この指導権  
の問題を繞つて同聯盟の將來に何等かの紛糾が豫想せら  
れたのであつた。事實、産業報國會の組織は急激に増加  
したか、これは勿論産業報國會聯盟共の他の民間關係乃至  
事業當事者の協力の結果でもあつたが、直接的には厚生  
、内務兩次官通はよつて地方官廳が積極的に好力に負か  
べきことが大であつた。そして、組織された産業報國會  
のうち同聯盟に正式に加盟せるものは極めて僅少に過ぎ

が、産業報國會聯盟は必らずしも所期の成績を擧げたとは言  
ひ得なかつたし、中央機關として充分有力な存在たるま  
では至らなかつた。斯かる事情の下にあつて、同聯盟  
の動向は各方面の注目を惹き、聯盟自体としてその組  
織を強化することによつて自からの進路を拓かねばなら  
なかつた。

こゝに於て、同聯盟はこれが對策を樹立するの必要に  
當面し、昭和十四年三月二十二日同聯盟理事會は規約、  
役員、全面に亘つて大改正を加へ、其の陣容を整備するこ  
とを決議した。即ち、新たに會長として協理會理事水野  
鍊太郎氏が就任し、顧問には内務大臣候補木戸幸一、文  
部大臣男爵荒木貞夫、商工大臣八田嘉明、厚生大臣廣瀨